

大阪医科大学学報

第18号 平成5年11月



大学発展の一助に「学報刷新」

「大阪医科大学学報」は平成元年発刊以来学事、人事、諸規程その他を、学内教職員に周知させることを目的に編集発行してまいりました。しかし最近、本学も大学改革、教育研究、あるいは財政、附属病院経営等に種々な課題が山積みしております。このような情勢下、より詳細に正確な広報活動の必要性を再認識し、今回発行の「学報」から発行方針を刷新し、広範な大学の実情や計画に関する情報を掲載し、さらにまた学内教職員、学生の寄稿を求め、本学在籍者相互の公私にわたる交流、人間的なふれ合いを深めるよすがとしたいと考えております。

従って、配布先も従来の理事者、評議員、教職員だけでなく、大学の維持基盤である卒業生、校友、学生父兄など学内外の関係各位に広げることと致しました。

「学報」の編集内容は、法人および大学ニュース、学術、学事、随想、大学教職員人事、経営情報、附属病院の動静、入学生、卒業生の状況、その他学内話題等を予定しております。また発行は原則として年4回（2.5.7.11月）行います。

以上の趣旨をご理解いただき、大学発展の一助として各位のご協力をお願い致します。なお、ご意見、ご要望がございましたら事務局までお知らせ下さい。

◆目

次◆

新学報発刊について……………	2	学位記授与……………	18
規定制定・改正……………	3	補助金内定……………	19
寄附行為変更……………	4	平成6年度入学試験要項……………	20
新設図書館紹介……………	5	会議・行事予定……………	23
教室紹介……………	7	附属病院（診療動態ほか）……………	26
海外出張記……………	9	第63回解剖慰霊祭……………	27
人事（採用・昇格・異動・休職・復職） （委嘱・解嘱・退職・海外渡航）……………	11～15	学内行事・体育関係……………	28
教授候補者の公募……………	16	随筆……………	31
		看護専門学校戴帽式……………	32

表紙 大学旧本館・洋画家小坂謙三

昭和2年建築の大学旧本館（Vories氏設計）サラセン風の様式をもつ風格ある建築物で、ほぼ半世紀にわたり、大学にかかわった多くの人の親しみと誇りとなってきた。歴史を秘めた面影は、いま陶板に描かれ、総合研究棟玄関壁面を飾っている。

薬事委員会規約を制定

最近の医薬品に係る環境の変化に対応するため病院長の諮問機関として薬事委員会が設置されることとなり、「薬事委員会規約」が教授会及び理事会で承認された。

設置

第1条 大阪医科大学附属病院（以下本院という）に病院長の諮問機関として薬事委員会（以下委員会という）を置く。

第2条 委員会は医薬品が本院において合理的に、かつ経済的に用いられるよう助言または勧告する。

第3条 委員会は次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 医薬品の採用と取扱中止に関すること。
なお、医薬品の採用に関しては当該医薬品の医学・薬学的評価と購入価格について審議する。
- (2) 薬事に関する指導教育に関すること。
- (3) 医薬品の本院内以外における情報交換に関すること。
- (4) 第4相臨床試験の院内における取扱いに関すること。
- (5) 本院医薬品集並びに院内約束処方集の編集および改定に関すること。
- (6) その他、薬事に関し、委員会が必要と認めた事項に関すること。

構成

第4条 委員会は次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 臨床各科より各1名
- (2) 病院事務部長
- (3) 薬事部長

委嘱

第5条 委員長は病院長が委嘱し、副委員長および委員は委員長が委嘱する。

(2) 第3条(1)を審議する構成員は小委員会細則第3条による。

任期

第6条 前条の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

委員長

第7条 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

(2) 委員長が欠席の場合は副委員長が代行する。

委員会

第8条 委員会は原則として月1回開催とする。但し、委員長は必要に応じて随時会議を開催することができ、また、資料を各委員に配布して回答を求める持ち回り方式による会議を開催することができる。

(2) 委員会は委員の半数以上の出席をもって成立する。

(3) 委員会の議決は出席委員の総意によることを原則とし、合意が得られないときは多数決で決定するか、継続審議とするかを議長が決する。持ち回り方式による会議の場合もこれに準ずる。

(4) 委員会において必要と認めた事項については、小委員会に諮問することができる。小委員会の構成、運営については別に細則をもって定める。

(5) 医薬品の取扱中止に関する審議は病院長が特に必要と認めて委員長に委嘱する事

項に限るものとする。

報 告

第9条 委員長は委員会における審議の結果を病院長に報告する。

事 務

第10条 委員会に関する事務は薬剤部が担当する。

改 廃

第11条 この規約の改廃は臨床教授会の議を経なければならない。

付 則

この規約は平成5年10月2日より施行する。

医薬品の採用と取扱中止に関する小委員会細則 設 置

第1条 本小委員会は薬事委員会の諮問機関として設置する。

第2条 本小委員会は医薬品の採用と取扱中止に関する事項を可及的速やかに審議し、薬事委員会に報告することを目的とする。

構 成

第3条 本小委員会は次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1)小委員長
- (2)審議対象となる医薬品を申請した科より各1名乃至2名
- (3)薬剤部医薬品情報管理室より1名
- (4)病院事務部用度課より1名

委 嘱

第4条 小委員長は委員長より規約第4条(1)の委員の中から委嘱する。

但し、審議対象となる医薬品を申請した臨床科の委員を除く。

(2)前条(2)号に掲げた小委員は審議対象とな

る医薬品を申請した各科教授が委嘱する。

(3)医薬品情報管理室からの小委員は薬剤部長が委嘱する。

(4)病院事務部用度課からの小委員は事務部長が委嘱する。

任 期

第5条 小委員の任期は審議が開始されてから終了までの期間とする。

但し、審議の回数は特に定めない。

寄附行為変更について

寄附行為改正委員会 委員長 中井 益代

本年5月開催の理事会において、理事長は評議員会の構成以外にも備な点はあると思うが、早急な対処が必要であり、今回は主として寄附行為第5章について早急に検討されたいと述べ、理事4名による寄附行為改正委員会が設置され、私が委員長となって同寄附行為の変更案を作成することとなった。

委員会としては、変更案作成に当たっては本学卒業生を含め広く有識者の意見を求めるとの方針のもとに、発足以来今日まで十数回にわたって委員会を開催し、その間、本学教職員並びに卒業生の代表とも意見交換の会合を開くなど鋭意検討を重ねてきた。今回の変更の要点は以下のとおりである。

- (1)評議員の総定数を増員し、各号評議員の数を定数化すること。
- (2)評議員の選任並びに推薦の方法。
- (3)評議員の任期。
- (4)議長について。
- (5)諮問・議決事項等の課題。

以上については、さる10月21日に臨時評議員会が開催され、評議員各位からも種々意見が述べられ、委員会としてはそれらを考慮して今後更に協議を行い、本年中に成案作成の運びとする予定である。

小委員会

第6条 小委員会の開催は委員長が定める。

(2)小委員会は全員出席により成立する。

(3)小委員会の議決は出席委員の合議による。

(4)小委員会の審議には、聴問のため申請医薬品の販売会社の代表者を出席させることができる。

報告

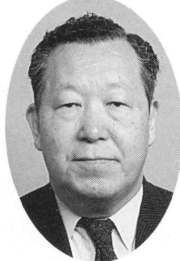
第7条 小委員会の議決結果は小委員長より委員長に報告する。

事務

第8条 小委員会に関する事務は薬剤部が担当する。

新図書館・来秋待望の開館

図書館長



藤本守

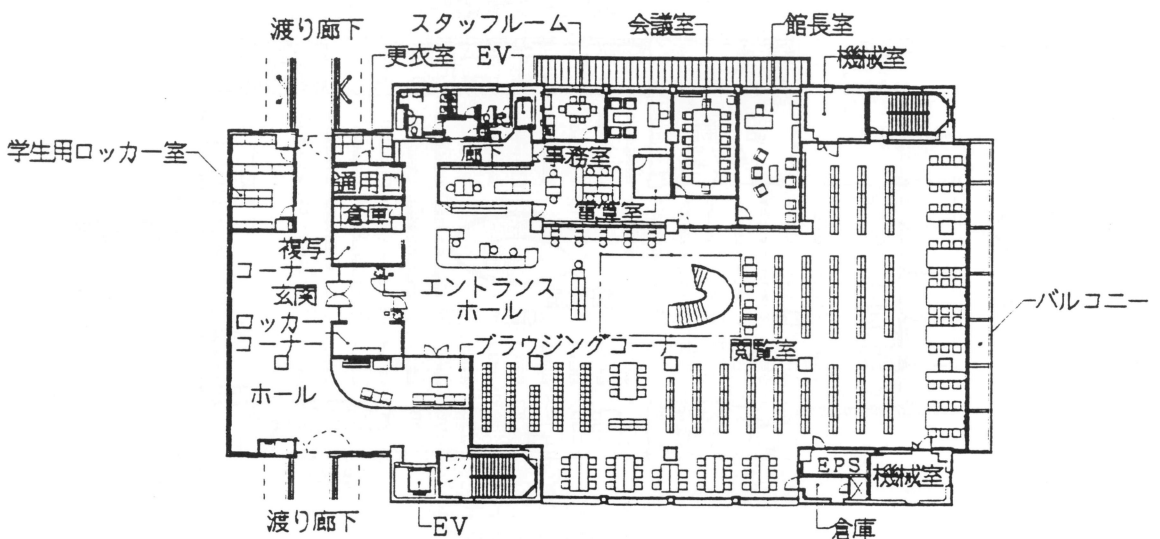
本学では、
1994年6月1日
の創立記念日に
本部・図書館棟
が竣工し、その
後二・三ヵ月以
内に新図書館が

開館する運びである。以下その内容について簡単に紹介する。

建物は地下1階、地上4階であり、建物の外観は西向き的大型ワゴン車状で、西正面がわず

地下1階・地上3階建て
最新の電子システムを多用

かにスウェイバックしている。また、後方にはサンクンガーデン（半地下から地上への斜面庭園）がある。建物全体では5770㎡であり、そのうち図書館固有の占有延面積は2697㎡（占有率は約47%）で、面積では最近の医学図書館の全国平均値（1992年現在：約2300㎡）をかなり上回っている。



2階平面図 S=1:500

図書館の主な部分は2階(1240㎡)と3階(1180㎡)である。その出入口は2階で、正面にラウンジを設けており、南側の総合研究棟や北側の教育実習棟とを2階レベルの連絡ブリッジで直接つないでいる。地下の一部には図書館専用の集密書庫室(277㎡)があり、図書館内2階から通じている。なお、4階の一部(学習室や会議室の前)に本学ゆかりの物品や資料な

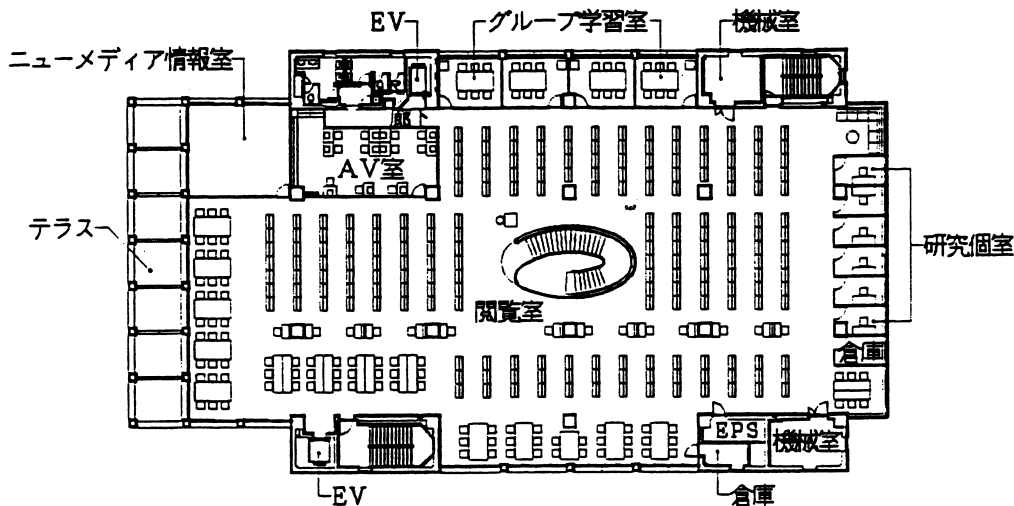
蔵書17万冊を目標

どの展示ホール(162㎡)が設けられている。

図書館出入口は2階1ヵ所である。登録カードによる入退館システムを採用し、ゲートにはBDS(図書紛失予防システム)がついている。2階は、中央に雑誌架、周辺に閲覧コーナー、左側にカウンター、事務室、複写コーナー、会議室、館長室などがある。新着和洋雑誌、二次資料、学習参考図書などの閲覧部は右側にある。3階は、開架図書スペース、閲覧コーナー、

AV室、ニューメディア情報室、研究個室、グループ学習室などからなる。看護専門学校用1.8万冊(現有1万冊、40座席)は3階に集約されている。

閲覧座席総数は229席、蔵書数は将来20年間を見越して約17万冊を目標とし、現存する単行書1.5万冊と1988年以前の製本雑誌7.4万冊を地下の電動集密書架(4746棚)に配備する。コンピュータシステムは、IBM-CLIS/400-Uによるパッケージで、今後使用可能な11万冊のうち、3.5万冊(製本雑誌1.5万冊、本館単行書1万冊、看護専門書1万冊)の閲覧入力を行っている。メインフレームは2階にあるが、ユーザー用端末機は数台を各階に配置する。また、CD-ROMサーバを導入し、5台の端末機を配置してMEDLINE等のCD-ROM検索を行えるように計画している。いずれ学内LANとの接続により、コンピュータ端末を通じて文献探索などを研究室からも行えるようにしたい。



3階平面図 S=1:500

教 室 紹 介

第 1 病 理 学 教 室

「肝臓の循環」研究に成果

実績豊かな生検業務

本学の病理学教室は、初代江口季雄教授（昭和3年～昭和21年）によって創設され、第二代波多野輔久教授（昭和26年～昭和29年）、第三代 田部浩教授（昭和29年～昭和43年）を経て、中田勝次教授（昭和48年～現在）に引継がれ、現在に至っている。元学長細川修治名誉教授は第1病理の出身で、昭和28年まで当教室の助教授をされた後、山口大学医学部教授として赴任した。

病理学教室は昭和3年～33年は創立以来の建物である解剖1号館（総合研究棟建築のため取りこわされた）にはいり、3階に教授室、1階に研究室と剖検室があった。昭和34年に、現在の総合研究棟の東隣りに解剖2号館が建設され、その2階に教授室と研究室が移った。さらに、平成2年総合研究棟の完成により、同棟5階に移転して現在に至っている。

教室のスタッフは、教授中田勝次（昭和23年本学卒）、助教授芝山雄老（昭和47年本学卒）、講師橋本和明（昭和55年本学卒）、助手浦野透（昭和59年本学卒）、安積正作（昭和61年本学卒）、副手布村 季（京都府立医大卒）、非常勤講師黒川彰夫（昭和46年本学卒）、技術員北國芳郎、荻野宏安、事務員鼻戸和美であるが、中田教授は平成6年3月末日で定年になる予定である。

病理学教室の業務は、1＝教育、2＝病理解

剖および病院病理学、3＝研究の3つである。病理解剖は本学および高槻赤十字、枚方市民病院、三島救命救急センターの症例を年間約60～70体行っている。剖検は最終臨床診断であって、臨床家に信頼され、よろこばれるような格調の高いものにしたいと願っている。生検業務は年間約1万件に達しているが中田教授以下全員が兼担になって本学中央検査部に協力して行っ



おり、また教室から山本隆一助手が中検に出向して外科病理に専念している。

第1病理における研究の主流は、肝臓の循環に関するものである。肝血流の生体顕微鏡観察、肝内微小血管の血圧測定、摘出肝灌流実験などの循環生理学的手法を駆使し、それと形態学的変化との関係を検討することによって病変の成立機序を明らかにしようとする研究であって、肝硬変における門脈圧亢進の原因解析、エンドトキシンによる肝巣状壊死や消化管出血の発生機序の解明に目覚ましい成果をあげている。そのようなことから、「肝臓の微小循環と言へば大阪医大第一病理」という風に定評をえ、これに関する著書も多い。（文責 中田）

胸部外科学教室

手術に学内外から信頼

各科連携が成果生む

設立：昭和51年に大阪医科大学の外科学教室が、それまでの第一・第二講座を廃して脳神経外科、胸部外科、一般・消化器外科の三分野を担当する3教室に再編成されたときに始まる。

現在のスタッフ：武内敦郎教授、佐々木進次郎助教授、麻田邦夫、近藤敬一郎両講師、立花秀一、小玉敏宏、川上万平、蓑原一良、折野達彦、西本泰久、長谷川滋人、澤田吉英各助手、その他専攻医、研修医ら計31人から成る。

特色：昭和29年秋に胸部外科の前身である第二外科（故麻田栄前教授）が開設され、一般外科と共に肺結核の外科、引き続き心臓外科が始まった。武内教授は麻田前教授を助けて教室開設に努力し、麻田前教授の神戸大学の転出後も、故板谷博之教授とともに第二外科教授として、主として心臓外科・呼吸器外科を担当していた関係で、外科学教室再編成にあたり、胸部外科学教授となり、今日に至っている。

教室の業績を振り返ると、まず昭和30年代の心臓外科の臨床は、先天性心疾患、僧帽弁狭窄症の手術から始まった、武内教授のアメリカ留学（クリーブランド、Dr. E.B. Kay）後、主として後天性心疾患の外科的療法に力を注がれ、現在虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）に対するバイパス手術・各種弁膜疾患の手術・不整脈に対するペースメーカー治療・胸腹部大動脈瘤の手術が連日行われており、現在までに3,700例を越える症例の手術が行われた。このような多数例の経験の有することは手術成績について学内外からの信頼が厚く、多方面よ

りの症例の紹介が後をたたないことを示している。その陰には教室における臨床研究として、超音波による心臓の術前病態の把握、手術中の心虚血に対する心筋保護法の工夫、無輸血手術の努力等が長年月にわたって取り上げられ、



右側にある人工心肺装置を働かせながら、冠動脈バイパス手術を行っているところ。

成果を上げていることと、教室員一同の日夜の研鑽の賜であるが、さらに注目すべきことは第一・第三内科と共同で行われている週1回の Cardiovascular Conference（心・血管カンファレンス）における熱心・率直な討論と各科連携の結果である。このカンファレンスは昭和38年以來1,100回を超え、講座間の壁をはずした密接な連絡によってよりよい臨床成績を上げることに大きな貢献をしている。

一方呼吸器外科は、第二外科開設から約10年間

肺癌治療にも好成績

は肺結核の外科的療法として肺切除術が頻繁に行われていたが、昭和40年代からは肺癌症例が増加し、気管支鏡による診断法も確立されて年間数十例（計400例）におよぶ肺癌に対する肺切除術が行われている。また教室ではその成績を向上させるべく、20年前から術前気管支動脈内抗癌剤注入療法を併用しており、病期別5年生存率はI期70%、II期60%、IIIa期20%で、早期治療例で好成

績をおさめている。また、内科・放射線科との合同カンファレンスも毎週開かれて790回に達しており、早期診断、早期治療と集学的な癌対策が密接な連携のもとに行われている。

これら心臓・呼吸器の多数の臨床経験をもとに、研究も多方面にわたって行われ、学位取得

者31名に達した。また胸部外科を設置する関連病院も5施設と増加しつつある。

近年わが国民の生活様式の欧米化に伴い、心疾患・肺癌症例の増加は着実に認められ、今後ますます求められる領域を担当する教室として責任の重さを痛感している。（文責 武内）



海外出張記

WHO国際胃癌シンポ（ミュンヘン）

一般・消化器外科学教室

教授 岡島 邦雄

本年9月9日より19日までドイツに出張した。WHO 国際胃癌シンポジウムがミュンヘンで開かれ、胃癌の WHO Collaborating Center

普及する日本流手術 天皇訪独で親日確信

(WHO-CC)の学術委員の一員である小生もこのシンポジウムに出席し、胃癌の外科治療（小生の担当領域）の現状を報告した。胃癌の WHO-CCの事務局は日本の国立がんセンターにあり、この会議は世界各国の代表者が集まって3年ごとに開かれているが、今回は初めて日本以外の地で開催されることになり、ドイツのミュンヘン大学のジーベルト教授が担当した。ミュンヘンに入る前にドイツ国内を廻り、エルランゲン大学やレーゲンスブルグの New Universityを訪問し、外科とくに胃癌の外科の実情を見てきた。



ミュンヘン新市庁舎に掲げられた
天皇陛下歓迎の日の丸

今回、彼の地の胃癌の手術を実際に見て、日本と同様なリンパ節郭清を行っていることに感動した。欧米では色々な理由で日本流の郭清は普及しないと思っていたが、これは小生の認識不足で、現在はドイツをはじめオランダやイタリアで日本流が行われている。

まず、エルランゲン大学のガル教授（昨年のドイツ外科学会々長）のところの胃癌の手術をみたが、総肝動脈、固有肝動脈は完全に露出し、腹腔動脈周囲、脾動脈根がしっかりと郭清されていた。ミュンヘン大学（Klinikum recht

der Isar)では腹部大動脈周囲の郭清まで行っており、我々の手術と何ら変わるところがない現状に驚いた。ジーベルト教授の言によるとドイツの外科医が1976年初めて日本流の胃癌の手術を見たとき、これは日本人にしかできない手術であると思っていたが、1980年に入って少しずつ日本流をはじめたところ、次第に広がり、現在はハノーバー、エルランゲル、ミュンヘン、ハイデルベルヒ、マンハイムの各大学で日本流が行われるようになったとのことである。治療成績も向上したので、日本流の胃癌の手術に感謝していると言っていた。今回の会議でもドイツの報告では1,000例近くが集計され、それなりの遠隔成績が出ていた。これは拡大手術の必要性を提唱し、推進された故陣内傳之助先生、故梶谷鑑先生のお力によるものと改めて敬意を捧げたいと思っている。

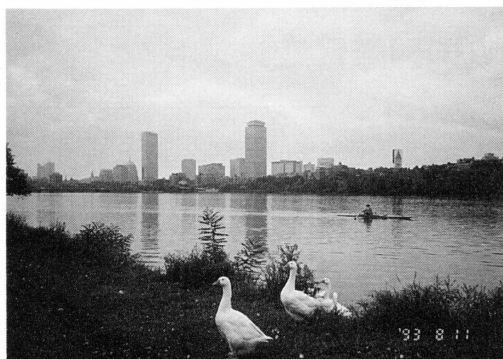
ドイツでは天皇ご一行のミュンヘン訪問と日程が重なった。街角で「カイザー・フォン・ヤパン」と数人のドイツ人に声をかけられたが、天皇は大変好意をもって迎えられているという感じがした。テレビではお二人のご結婚パレードやテニスのお姿、天皇即位式などのビデオが繰り返し、繰り返し放映されていた。また、ミュンヘンのネオ・ゴチック建築で有名や新市庁舎(Neues Rathaus)前の広場にドイツ国旗、バイエルン州の旗と一緒に日の丸が掲げられ、歓迎の意を表しているのを見て大変嬉しく思った。

天皇の他国訪問は総理や大臣級の訪問よりもその効果ははるかに大であると思っている。帰国の9月18日はOktoberfestの開会日であり、このとき天皇ご一行もお祭りに臨場されるという噂があったが、もし実現していたら大歓迎で

大変であっただろう。Oktoberfestの会場に我々日本人が数人いても「カイザーの一行か」と尋ねる位ドイツ人は関心を持っておりしかも好意が感じられ、天皇訪欧は大成功であったと実感して帰国した。

Diagnostic Pathology '93 (アメリカ・カナダ病理学会教育セミナー)に参加して

第二病理 講師 前田 環



<ホテルから会場に通うチャールズ河畔の遊歩道。対岸はボストン。>

セミナーは8月7日から1週間。会場はマサチューセッツ工科大学(MIT)である。その前に私の留学校だったミンガン大学を訪ねた。友人達から「地震は大丈夫だったか?ハリケーンは?洪水は?」と尋ねられた。私との交友から

貴重なAIDS 資料得る 同じ土俵上にある実感

日本に関心をもっていることがわかり嬉しかった。私も「ミシシッピーの大洪水は?」と飛行機から何度も見下ろしてみたが見えるはずなかった。また熱波襲来を報道されていた東海岸にあるボストンはむしろ涼しかった。

ボストンは京都と姉妹都市の古い街である。トローリー観光バスで自由散歩道と市内の史跡を巡る。「アメリカ最古の」肩書き通りの歴史を感じさせる建築物が多い。独特のジョークを連発するガイドの英語はわかりにくかった。MITはチャールズ河の対岸、ケンブリッジにある。7日夕方、受付で重たい布製バッグを受け取った。1週間分のテキストとスライド写真が詰め込まれている。項目は14にもわたっており「予習がしんどいぞ」と空恐ろしくなる。セミナーには全項目勤勉に(!)参加したが、内容については割愛する。ただ AIDS 関連の病変と移植心臓の拒否反応の組織像のスライド写真を手に入れたことは記しておきたい。日本でもトピックスであるが症例が少なく、実例をみる機会がないのでありがたかった。

こういう会合で旧知の人と会ったり、新たな知人をえることは幸せである。ミンガン大学の高名のシャロン・バイス先生が、私を覚えてくださっていたのは光栄であった。大阪医大で講演をしていただいたベル先生と、食事ができたのも楽しかった。参加者は100名、何人かの病理医と雑談ができた。母親が日本人だが日本語が話せない女医。「アメリカで目立たない母が日本に帰ると『はで』と周囲が驚く」という。その『はで』だけ日本語で言ったのが面白い。軍籍時に沖縄にいたという男性はたいへん流暢な日本語で話しかけてきた。初老のドクター、名前は「かわもと」だったが日本語を話さなかった。短い期間に日本と繋がりがあがる3人と話しをすることができたのは驚きであった。その上セミナー中にも多くの日本人の文献が引用・紹介された。病気の頻度や分布の違いはあっても病理という世界の土俵のうえに、自分もいるのだなという実感が湧いてきて心強かった。

私も親しんでいる外科病理の教科書の著者として名高いアッカーマン教授が7月末に逝去された。先生の文献が引用される際に、追悼の辞が述べられたが、その追悼の言葉が参加者一同に今回のセミナーを一段と印象深いものにした。

人 事

〔採用〕

助 手	香月 脩二 (脳神経外科学)	8. 1
〃	南 敏明 (麻 酔 科 学)	〃
〃	辻 厚子 (皮 膚 科 学)	〃
〃	高橋 信也 (泌尿器科学)	〃
〃	浮田 透 (脳神経外科学)	8.16
事 務 員	小野 純子 (病院薬剤部 薬品管理課)	〃
技術補助員	川本 邦子 (病院内視鏡室)	〃
助 手	川上 佳秀 (内 科 学 Ⅲ)	9. 1
〃	中井 健 (耳鼻咽喉科学)	〃
〃	塙 力哉 (〃)	〃
技 術 員	伊藤美奈子 (病院輸血室)	〃
〃	古財有里子 (〃)	〃
看 護 婦	児玉めぐみ (病院看護部)	〃
〃	諏訪園 恵 (〃)	〃
助 手	植山 正邦 (内 科 学 Ⅲ)	10. 1
看 護 婦	山下美由紀 (病院看護部)	〃
助 手	水野 貴史 (形成外科学)	10.16
〃	阪口 正博 (病 院)	〃
〃	小林 正直 (〃)	〃
技 術 員	岩田 理香 (病院輸血室)	〃
准看護婦	熊田 真美 (病院看護部)	〃
看護補助員	浜口富志子 (〃)	〃
舎 監	伊豆丸 剛 (看護専門学校)	11. 1

〔退 職〕		
助 手	小畑 仁司 (脳神経外科学)	7.31
〃	矢本 真城 (麻 醉 科 学)	〃
〃	伊木まり子 (皮 膚 科 学)	〃
〃	青山 直樹 (泌尿器科学)	〃
看 護 婦	前田由紀子 (病院看護部)	〃
〃	山下 美幸 (〃)	〃
〃	中田 博子 (〃)	〃
〃	森田 桂 (〃)	〃
看護事務員	中川 明子 (〃)	〃
事 務 員	笹山 育男 (看護専門学校)	〃
技 術 員	筒井寿美子 (病院内視鏡室)	8.28
助 手	坂 哲郎 (耳鼻咽喉科学)	8.31
〃	本山 壯一 (〃)	〃
看 護 婦	末村 美穂 (病院看護部)	〃
〃	田中 陽子 (〃)	〃
〃	前田 道子 (〃)	〃
看護補助員	楢崎 正明 (〃)	〃
看 護 婦	田原 美香 (〃)	9.15
講 師	今井 啓介 (形成外科学)	9.30
助 手	西原 徳文 (内科学Ⅱ)	〃
〃	西村 光 (内科学Ⅲ)	〃
〃	西村 淳幸 (一般・消化器 外 科 学)	〃
〃	御前 治 (産婦人科学)	〃
技術補助員	梅田ともり (病院輸血室)	〃
看 護 婦	松下めぐみ (病院看護部)	〃
技 術 員	日外 和代 (衛生学・ 公衆衛生学)	10.15
助 手	浮田 透 (脳神経外科学)	10.31
〃	佐伯 理男 (産婦人科学)	〃
〃	山崎 洋之 (形成外科学)	〃
用 務 員	段堀美佐子 (病院事務部 栄養給食課)	〃

臨床指導者 代 理	浦戸 明美 (病院看護部)	10.31
看 護 婦	天野こずえ (病院看護部)	〃
〃	肥後 友美 (〃)	〃
〃	石井 佐和 (〃)	11. 5

〔昇格・異動〕

昇格

内 科 学 Ⅲ 講 師	出口 寛文 (内科学Ⅲ 助 手)	8. 1
内 科 学 Ⅲ 学 内 講 師	諏訪 道博 (内科学Ⅲ 助 手)	11. 1

財 務 部 財 務 部 長 兼 会 計 課 長	池田 良正 (財務部長代理 兼 会 計 課 長)	〃
-------------------------------	-----------------------------	---

病 理 学 Ⅱ 技 師 長 代 理	香川 満夫 (基礎技師長補佐)	〃
----------------------	-----------------	---

総務部庶務課 水質検査室 主任技術員	平井 隆司 (庶務課技術員)	〃
--------------------------	----------------	---

病院麻酔科 技 術 主 任	河内 明 (麻酔科技術員)	〃
------------------	---------------	---

解 剖 学 主 任 技 術 員	金山 忠志 (解剖学技術員)	〃
--------------------	----------------	---

機 器 共 同 利 用 セ ン タ ー 主 任 技 術 員	上野 照生 (機器共同 利 用 セ ン タ ー 技 術 員)	〃
-------------------------------------	--------------------------------------	---

病院事務部 用 度 課 主 任	谷口 明美 (用度課事務員)	〃
--------------------	----------------	---

異動

病院事務部 用 度 課 事 務 員	北岡 紀子 (医事課事務員)	8.16
-------------------------	----------------	------

内 科 学 Ⅱ 助 手	松本 章夫 (病院助手)	10.16
----------------	--------------	-------

一般・消化器 外 科 学 助 手	原 均 (〃)	〃
------------------------	-----------	---

〔休職・復職〕

休職

講 師	渡邊 房男 (化 学)	8. 5
-----	-------------	------

臨床指導者	田尻 后子 (病院看護部)	9.13
-------	---------------	------

看護事務員 藤田 幸子 (病院看護部) 10.27
 講 師 中張 隆司 (生理学 I) 11. 1
復職
 講 師 渡邊 房男 (化 学) 8. 1
 学内講師 上野 浩 (病理学 II) 9. 1
 助 手 田村 陽史 (脳神経外科学) ”

〔委嘱・解嘱〕

学長予定者選考規程改正委員会委員

教 授 高橋 宏明 (耳鼻咽喉科学) 8. 1
 助 授 渡邊 千舟 (眼 科学) ”
 講 師 前田 環 (病理学 II) ”
 助 手 宮崎 時子 (法 医学) ”
 ” 瀬尾 崇 (神経精神医学) ”

病理学 (I) 講座担当教授選考委員会委員

教 授 大槻 勝紀 (解剖学 I) 7.21
 ” 島田 眞久 (解剖学 II) ”
 ” 森 浩志 (病理学 II) ”
 ” 溝井 泰彦 (法 医学) ”
 ” 岡島 邦雄 (一般・消化器
外科学) ”
 助 授 鈴木 廣一 (法 医学) ”
 ” 友田 恒典 (病態検査学) ”
 講 師 橋本 和明 (病理学 I) ”
 ” 山本 雄三 (耳鼻咽喉科学) ”
 助 手 安積 正作 (病理学 I) ”
 ” 三好 博文 (内科学 II) ”

同上委員会委員長

教 授 森 浩志 (病理学 II) 7.29

内科学 (II) 講座担当教授選考委員会委員

教 授 宮崎 瑞夫 (薬 理 学) 9. 8
 ” 大澤 仲昭 (内科学 I) ”
 ” 河村慧四郎 (内科学 III) ”
 ” 岡島 邦雄 (一般・消化器
外科学) ”
 ” 清水 章 (病態検査学) ”
 助 授 米田 博 (神経精神医学) ”
 ” 西村 忠史 (小児科学) ”
 講 師 竹田 喜信 (内科学 II) ”
 ” 平田 一郎 (”) ”
 助 手 浅田 修二 (”) ”
 ” 梁 壽男 (一般・消化器
外科学) ”

同上委員会委員長

教 授 大澤 仲昭 (内科学 I) 9.29

胸部外科学講座担当教授選考委員会委員

教 授 河村慧四郎 (内科学 III) 9.22
 ” 岡島 邦雄 (一般・消化器
外科学) ”
 ” 太田 富雄 (脳神経外科学) ”
 ” 小野村敏信 (整形外科学) ”
 ” 植林 勇 (放射線医学) ”
 助 授 栗本 宗治 (麻 醉 科学) ”
 ” 高崎 登 (泌尿器科学) ”
 講 師 麻田 邦夫 (胸部外科学) ”
 ” 木下 光雄 (整形外科学) ”
 助 手 北 祥男 (内科学 III) ”
 ” 川上 万平 (胸部外科学) ”

同上委員会委員長

教 授 小野村敏信 (整形外科学) 10. 6

〔海外渡航〕

留 学

渡邊 房男 (化学講師)

アメリカ (テキサス大学) 5.8.5 ~ 6.7.31

田尻 后子 (病院看護部臨床指導者)

アメリカ (ELS ランゲージセンター)
5.9.13 ~ 6.9.12

中張 隆司 (生理学 I 講師)

カナダ (トロント大学)
4.11.1 ~ 6.8.31 (10ヶ月延長)

帰 学

渡邊 房男 (化学講師)

アメリカ (テキサス大学) 4.8.1 ~ 5.7.31

上野 浩 (病理学 II 学内講師)

アメリカ (バージニア大学) 4.9.1 ~ 5.8.31

田村 陽史 (脳神経外科学助手)

アメリカ (バロー神経研究所)
4.9.23 ~ 5.8.31

出 張

田中 正寛 (物理学講師)

ハンガリー (ブダペスト) 7.24 ~ 8.6

鈴木 廣一 (法医学助教授)

ロシア共和国 7.25 ~ 8.12

大澤 仲昭 (内科学 I 教授)

韓国 (ソウル) 7.29 ~ 8.1

今井 雄介 (生理学 I 教授) 7.31 ~ 8.12

藤本 守 (生理学 II) // // ~ 8.11

青木 一郎 (物理学助教授) // ~ 8.8

イギリス (グラスゴー)

前田 環 (病理学 II 講師) 8.3 ~ 8.15

アメリカ (マサチューセッツ)

溝井 泰彦 (法医学教授)

ドイツ (デュッセルドルフ) 8.13 ~ 8.28

中務 真人 (解剖学 I 助手)

ベルギー (ブラッセル) 8.17 ~ 9.6

高松 順太 (内科学 I 講師)

サウジアラビア (リヤド) 8.20 ~ 8.30

田嶋 定夫 (形成外科学教授)

香港 8.22 ~ 8.26

宇田るみ子 (麻酔科学助手)

南 敏明 (// //)

フランス (パリ) 8.22 ~ 8.27

岡島 邦雄 (一般・消化器外科学教授)

香港 8.22 ~ 8.28

水谷 均 (一般・消化器外科学講師)

香港 8.22 ~ 8.29

牧本 一男 (耳鼻咽喉科学助教授)

ハンガリー (ブダペスト) 8.27 ~ 9.5

野井 理 (耳鼻咽喉科学助手)

ハンガリー (ブダペスト) 8.27 ~ 9.4

小野村敏信 (整形外科学教授)

韓国 (ソウル) 8.29 ~ 9.5

阿部 宗昭 (整形外科学助教授)

韓国 (ソウル) 8.27 ~ 9.4

木下 光雄 (整形外科学講師)
土居 宗算 (" 学内講師)
奥田 龍三 (" 助手)
韓国 (ソウル) 8.29 ~ 9. 4

堺 俊明 (神経精神医学教授)
野々村安啓 (" 助手)
ドイツ (ベルリン) 9. 3 ~ 9.15

名木田 章 (小児科学学内講師)
アメリカ (コロンバス) 9. 4 ~ 9.17

篠田 恵一 (内科学 I 助手)
杉野 正一 (" ")
木村 文治 (" ")
カナダ (バンクーバー) 9. 5 ~ 9.14

北 祥男 (内科学 III 助手)
アメリカ (アラバマ州) 9. 7 ~ 9.14

佐々木 聖 (小児科学講師)
オランダ (ロッテルダム) 9. 8 ~ 9.15

岡島 邦雄 (一般・消化器外科学教授)
山田 眞一 (" 助教授)
磯崎 博司 (" 講師)
ドイツ (ミュンヘン) 9. 9 ~ 9.18

永田 裕人 (整形外科学助手)
イギリス他 9.15 ~ 9.25

兵頭 正義 (麻酔科学教授)
稲森 耕平 (" 講師)
韓国 (ソウル) 9.16 ~ 9.20

大槻 勝紀 (解剖学 I 教授)
伊藤 裕子 (" 学内講師)
アメリカ (ワシントン D.C.) 9.19 ~ 9.26

長井 曜子 (神経精神医学助手)
台湾 (台北) 9.22 ~ 9.27

河村慧四郎 (内科学 III 教授)
ポーランド (ワルシャワ他) 9.29 ~ 10.10

堺 俊明 (神経精神医学教授)
米田 博 (" 助教授)
野々村安啓 (" 助手)
康 純 (" ")
アメリカ (ニューオーリンズ) 10. 1 ~ 10.11

松本 秀雄 (学長)
イタリア (ベニス) 10. 7 ~ 10.17

鈴木 廣一 (法医学助教授)
宮崎 時子 (" 助手)
イタリア (ベニス) 10.10 ~ 10.17

西村 忠史 (小児科学助教授)
アメリカ (ニューオーリンズ) 10.17 ~ 10.23

田嶋 定夫 (形成外科学教授)
韓国 (ソウル) 10.24 ~ 10.27

田中 嘉雄 (形成外科学助教授)
韓国 (ソウル) 10.25 ~ 10.28

森田 眞照 (一般・消化器外科学学内講師)
スペイン (マドリッド) 10.26 ~ 11. 5

田嶋 定夫 (形成外科学教授)
オーストラリア (ブリスベン) 10.31 ~ 11. 7

教授候補者の公募について

第1病理学講座担当中田勝次教授、第2内科学講座担当大柴三郎教授及び、胸部外科学講座担当武内敦郎教授の3教授が明年3月31日をもって定年退職されますため、その後任教授の選考を行うこととなります。応募要項は下記の通りです。

<病理学第一講座担当教授候補者応募要項>

1. 募集人員 教授1名
2. 応募資格 10年以上の病理学の教育歴（非常勤教員歴も含む）と研究歴があり、医学博士の学位を持ち死体解剖保存法による死体解剖資格を取得していること。
3. 職務 病理学の教育と研究、および生検・剖検業務

注：本学では病理学の教育と剖検を2つの病理学講座が等分に分担しています。生検業務は中央検査部の病理部門が主体となり、2つの病理学講座が協力して行っています。なお、病理学第二講座は現在、内分泌・生殖器系病変を主たる研究領域としています。

4. 募集方法 自薦または他薦による公募
5. 提出書類（同封の用紙を使用して下さい）
 - 1) 履歴書（様式1）
 - 2) これまでの活動の概要と将来の抱負（B4用紙<縦>1枚）
 - 3) 教育・研究業績目録（様式2）
 - 4) 教育・研究業績一覧表（様式3）
 - 5) 主要論文（5編、別刷各3部）
 - 6) 他薦の場合は推薦書（様式4）および候補者本人の被推薦同意書（様式随意、B5用紙）
6. 締切期日 平成5年11月20日（土）必着

7. 提出先

〒569 高槻市大学町2番7号

大阪医科大学総務部庶務課気付
病理学第一講座担当教授選考委員会
（電話 0726 - 83 - 1221 代）

- 添付書類
- ・ 本学教授選考規程（抜粋）
 - ・ 履歴書 様式1
 - ・ 教育・研究業績目録 様式2
 - ・ 教育・研究業績一覧表 様式3
 - ・ 推薦書 様式4
 - ・ 応募書類作成上の注意事項（業績目録記載例付き）

付記：選考の過程で、選考委員会が応募者の方とお会いする機会を持ちたいと存じます。

<内科学第二講座担当教授候補者応募要項>

応募の方法は自薦または他薦によります。

（別紙 本学教授選考規程第6条参照）

- 1) 提出書類（同封の用紙を使用して下さい）
 - ・ 履歴書（様式1）
 - ・ 臨床・教育・研究歴（臨床、教育、研究活動の概要及び将来の抱負をB4用紙<縦>に横書き2000次程度にまとめて下さい）
 - ・ 研究業績目録（様式2）
 - ・ 主要論文（5編、別刷各5部）（コピーでも可）

・他薦の場合は推薦書（様式3）および本人の同意書（様式随意、B5用紙）を添付して下さい。

2) 締切期日 平成5年12月17日（金）必着

3) 提出先 高槻市大学町2番7号（〒569）

大阪医科大学総務部庶務課気付
内科学第二講座担当教授選考委員会

（電話 0726 - 83 - 1221 代）

添付書類 ・ 本学教授選考規程（抜粋）

- ・ 履歴書 所定形式
- ・ 業績目録 所定形式
- ・ 推薦書 所定形式

付記：選考の過程で、選考委員会が応募者の方とお会いする機会を持ちたいと存じます。

<胸部外科学講座担当教授候補者応募要項>

応募の方法は自薦または他薦によります。

（別紙 本学教授選考規程第6条参照）

1) 提出書類（同封の用紙を使用して下さい）

- ・ 履歴書（様式1）
- ・ 臨床・教育・研究歴（臨床、教育、研究活動の概要及び将来の抱負をB4用紙<縦>に横書き2000字程度にまとめて下さい）
- ・ 研究業績目録（様式2）
- ・ 主要論文（5編、別刷各5部）（コピーでも可）
- ・ 他薦の場合は推薦書（様式3）および本人の同意書（様式随意、B5用紙）を添付して下さい。

2) 締切期日 平成5年12月27日（月）必着

3) 提出先 高槻市大学町2番7号（〒569）

大阪医科大学総務部庶務課気付
胸部外科学講座担当教授選考委員会

（電話 0726 - 83 - 1221 代）

添付書類 ・ 本学教授選考規程（抜粋）

- ・ 履歴書 所定形式
- ・ 業績目録 所定形式
- ・ 推薦書 所定形式

付記：選考の過程で、選考委員会が応募者の方とお会いする機会を持ちたいと存じます。

名誉教授岩田繁雄殿より 学生奨学資金をご寄付

本学名誉教授岩田繁雄殿は、かねて、病院長及び評議員として本学および法人の発展のためにご尽力を賜りました。この度、同氏より本学の学生奨学資金として10万ドル（米国債券割引債）のご寄付の申出があり、8月11日に学長が受領致しました。使用方法等については、ご芳志にそうべく学長のもとで検討しております。

学 位 記 授 与

平成5年度（第1回）の学位記が7月21日付けで下記の12名に授与されました。授与式が7月29日に執り行われました

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第581号	高 田 興	潰瘍性大腸炎の腸粘膜分離リンパ球における活性化 T 細胞の検討 —three-color flow cytometry を用いて—
乙第582号	高 尾 雄二郎	The effect of acid secretagogues on mucin synthesis using primary monolayer culture of the guinea pig gastric mucous cells (初代モルモット胃粘液細胞単層培養系を用いた酸分泌刺激物質の粘液合成に及ぼす影響)
乙第583号	伊 藤 尚	Estimation of proliferative activity of experimental tongue carcinoma in rats. Immunohistochemical and DNA cytofluorometric analysis. (ラット実験的舌癌における増殖能の評価 免疫組織化学的方法と DNA 顕微蛍光測光法による解析)
乙第584号	佐々木 恵 雲	Postprandial hypotension in patients with non-insulindependent diabetes mellitus (インスリン非依存型糖尿病患者における食事性低血圧)
乙第585号	河 野 龍 而	LEFT VENTRICULAR SHAPE IS THE PRIMARY DETERMINANT OF FUNCTIONAL MITRAL REGURGITATION IN HEART FAILURE [慢性心不全における機能的僧帽弁閉鎖不全の発生機序： 左室形態変化（球形化）の重要性]
乙第586号	荘 野 忠 朗	両眼同時等量前後転手術（Kestenbaum 法）による先天眼振安静位の長期予後と定量
乙第587号	本 合 泰	脾腫瘍の診断における Argyrophilic nucleolar organizer regions (AgNORs) 染色および proliferating cell nuclear antigen (PCNA) 染色の有用性
乙第588号	松 本 清 子	免疫電顕法による HIV-1 構成蛋白の局在性の検討に関する研究
乙第589号	東 野 健	BT-PABA 及び Fluorescein-Dilaurate 同時経口負荷による脾外分泌機能検査の検討 —血清 PABA 濃度及び血清 Fluorescein 濃度を指標として—
乙第590号	久保田 次 郎	Effects of renal denervation on pressure-natriuresis in spontaneously hypertensive rats (高血圧自然発症ラットにおける腎神経除去の圧ナトリウム利尿曲線におよぼす影響)
乙第591号	立 花 秀 一	肺癌に対する温熱療法の研究
乙第592号	澤 田 吉 英	開心術時虚血心筋の保護に関する実験的検討 —GIK cardioplegia 下の細胞内環境の観察と C_0Q_{10} の保護作用—

文部省等の補助金の内定について

かねてより本学が申請していましたが平成5年度文部省等の補助金の内定通知が下記の通りありました。

平成5年度私立学校施設整備費補助金（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費）

装 置 名	購 入 価 格 (円)	補助金内定額 (円)	納 入 業 者 名	納品 予定年月日
生体試料質量分析システム	133,900,000	65,570,000	フィニガン・マット・ インスツルメンツ・インク	6. 2. 28

平成5年度私立大学研究設備整備費等補助金（私立大学研究設備等整備費）

設 備 名	購 入 価 格 (円)	補助金内定額 (円)	納 入 業 者 名	納品 予定年月日
分子設計支援システム	36,771,000	17,480,000	シーティーシー・ ラボラトリーシステムズ(株)	6. 2. 28

平成5年度私立大学等経常費補助金特別補助「国際交流特別経費」のうち 海外研修派遣

派 遣 者	渡邊房男（化学講師）	上野 浩（病理学Ⅱ助手）
研 究 課 題	真核生物におけるフルクトース 2,6 ニリン酸の調節機構	精巢の血管および間質における細胞接着因子の 発現
期 間	4. 8. 1～5. 7. 31（365日間）	4. 9. 1～5. 8. 31（365日間）
研 修 先	アメリカ（テキサス大学）	アメリカ（バージニア大学）
補 助 額 （今年度分）	485 千円	621 千円

平成6年度入学試験要項

平成6年度大学医学部・大学院医学研究科・看護専門学校それぞれの入学試験要項が下記の通り決定いたしました。

I) 医学部医学科

- 1) 入学願書受付期間
平成6年1月10日(月)～2月4日(金)
- 2) 学科試験日および試験科目

月日(曜)	時 間	教 科	科 目 (出 題 範 囲)
2 月 18 日 (金)	9:30～11:10(100分)	数 学	数学Ⅰ, 代数・幾何, 基礎解析, 微分・積分, 確率・統計 (統計を除く)
	12:30～14:30(120分)	理 科	物理, 化学, 生物(各科目は理科Ⅰの内容を含む)のうちから 2科目選択
	15:30～17:00(90分)	外 国 語	英語Ⅱ・ⅡB・ⅡC

- 3) 試験場
関西大学・千里山学舎
- 4) 学科試験合格者発表
3月1日(火)午後4時 本学専門部および教養部構内に掲示するとともに、出願者全員に対して電子郵便で「学科試験合格者受験番号一覧表」を送付する。
- 5) 面接試験・小論文および身体検査
3月8日(火)午前8時20分(学科試験合格者のみ)
- 6) 合格者発表
3月9日(水)午後5時本学構内に掲示し、本人宛(保護者現住所)にも通知する。
- 7) 入学検定料 40,000円
- 8) 納付金(入学時)

納 付 金	金 額
入 学 金	1,000,000円
授 業 料(第Ⅰ期分)	340,000円
実 習 料(第Ⅰ期分)	100,000円
施設拡充費(第Ⅰ期分)	240,000円
教 育 充 実 費	9,500,000円
小 計	11,180,000円
学 友 会 入 会 金	5,000円
学 友 会 会 費	4,500円
小 計	9,500円
合 計	11,189,500円

(注)

- 1) 授業料、実習料、施設拡充費は毎年3期分納とし、第2期分および第3期分はそれぞれ授業料33万円、実習料10万円、施設拡充費23万円である。
- 2) 2年次以降の納付金は毎学年200万円(授業料100万円、実習料30万円、施設拡充費70万円)である。

★入学手続を完了した者で3月28日(月)正午までに書類により入学辞退を申し出た場合、入学金以外の納付金を返還する。

II) 大学院医学研究科

1) 入学願書受付期間

平成6年1月6日(木)～1月19日(水)

2) 入学試験日時、試験科目および試験場

3) 合格発表

平成6年3月2日(水)午前9時本学内に
掲示すると共に本人宛にも通知する。

4) 入学検定料 10,000円

5) 納付金

月日(曜)	時間	試験科目	試験場
2月3日(木)	9:30～11:30	外国語	本学
	12:30～13:30	健康診断	
	13:30～16:00	面接	
2月4日(金)	14:00～16:30	専攻科目	

納付金	金額
入学金	60,000円
授業料(年額)	100,000円
実習料(年額)	150,000円
合計	310,000円

III) 看護専門学校

学 科	第一看護学科(三年課程)		第二看護学科(二年課程 全日制)	
募集人員	40名		40名	
受験資格	1) 高等学校卒業のもの、又はそれと同等の資格を有する者 2) 本年度中に上記の資格取得見込みの者		1) 高等学校衛生看護学校卒業及び卒業見込者 2) 高等学校を卒業し、准看護婦の資格を有する者 3) 准看護婦の免許を取得してから3年以上看護業務に従事している者	
	1次試験	2次試験	1次試験	2次試験
試験日時	平成6年1月30日(日) 9:00～15:30	平成6年2月1日(火) 8:00～	平成6年1月25日(火) 9:00～12:20	平成6年1月26日(水) 8:30～
試験科目	筆記試験 国語Ⅰ・国語Ⅱ 数学Ⅰ 生物・化学・(夫々の科目は理Ⅰの範囲を含む)のうちいずれか1科目選択 英語Ⅱ 適性検査	身体検査 面接	筆記試験 一般科目(数学Ⅰ、英語Ⅰ、国語Ⅰ) 専門科目(准看護婦課程において履修した科目) 適性検査	身体検査 面接
試験場	高槻YMCA学院 高槻市八丁西町5番37号	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号	高槻YMCA学院 高槻市八丁西町5番37号	大阪医科大学 高槻市大学町2番7号

次ページへ続く

学 科	第一看護学科（三年課程）		第二看護学科（二年課程 全日制）	
合格発表	平成6年1月31日（月） 12:00	平成6年2月5日（土） 12:00 合否については本人宛 に郵送で通知する	平成6年1月26日（水） 8:00	平成6年1月29日（土） 12:00 合否については本人宛 に郵送で通知する
	いずれも大阪医科大学正門の掲示板に発表する			
受験料	15,000 円			
受付期間	平成6年1月5日（水）～1月22日（土）消印有効		平成6年1月5日（水）～1月14日（金）消印有効	
学 費	入 学 金 80,000円		授 業 料 120,000円（年間）	
			実験実習費 6,000円（年間）	
備 考	1年生は寄宿舎に入寮することを原則とする。			

主要会議とその主な議題

(7.23～11.10)

7月23日より11月10日までの間に行われた主要な会議とその主な議題は次の通りです。

〔理事会〕

(7月30日)

1. 高槻市からの道路整備にかかわる大学土地一部買収依頼に関する件
(10月2日)
1. 寄付行為変更に関する件
2. 奨学寄付金受け入れについて
3. 本学に医薬品取扱いをめぐる環境変化に対応した仮称薬事委員会設置案に関する件について
4. 岩田名誉教授よりの寄付金について
5. 大阪医科大学学報について

〔理事懇談会〕

(9月6日)

1. 寄附行為変更に関する件

〔評議員会〕

(7月30日)

1. 高槻市からの道路整備にかかる大学土地一部買収依頼に関する件
(10月21日)
1. 寄附行為変更について

〔教授会〕

(9月8日)

1. 人事に関する件(非常勤講師の任用)
2. 教授選考に関する件(病理学第一講座・内科学第二講座・胸部外科学講座)
3. 薬事委員会設置に関する件
4. その他
1) 医学奨学生の推薦について

- 2) 泌尿器科問題に関する調査委員会の解散について

- 3) 大学自己点検・評価の組織委員会委員の委嘱について

(9月22日)

1. 人事に関する件(学内講師及び非常勤講師の任用)

2. 教授選考に関する件(物理学)

(10月6日)

1. 人事に関する件(非常勤講師の任用、外国人共同研究者の受入れ)

2. 教授選考に関する件(内科学第二講座・胸部外科学講座)

3. その他

- 1) 学長予定者選考規程改正委員会委員の委嘱について

(10月20日)

1. 人事に関する件(学内講師及び非常勤講師の任用)

2. 教授選考に関する件(内科学第二講座・胸部外科学講座)

3. 平成6年度授業時間割編成に関する件

(11月10日)

1. 人事に関する件(胸部外科学講座)

2. 平成5年度日本育英会奨学生の追加推薦に関する件

〔大学院医学研究科委員会〕

(10月6日)

1. 平成6年度大学院学生募集に関する件

2. 研究生願出に関する件

(10月20日)

1. 学位論文受理に関する件

(11月10日)

- 1) 研究生の願出に関する

行事予定

(11月11日～平成6年2月1日)

11月11日より平成6年2月1日までに行われる学内における主要な予定は次の通りです。

17日(水) 医学会平成5年度秋季学術講演会

24日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

11月30日(火) 理事会、評議員会

12月3日(金) 進学課程学年末試験(12月16日まで)

8日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

11日(土) 動物慰霊祭

15日(水) 第5学年臨床実習オリエンテーション

17日(金) 第1学年早期医学体験学習

22日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

25日(土) 医学部学生冬期休業(1月7日まで)

1月4日(火) 年賀交歓会

1月5日(水) 看護専門学校入学願書受付開始
第一看護学科(三年課程)
(1月22日まで)
第二看護学科(二年課程)
(1月14日まで)

6日(木) 大学院医学研究科入学願書受付開始(1月19日まで)

10日(月) 教授会、大学院医学研究科委員会
第3、4、5学年授業及び臨床実習開始
医学部入学願書受付開始(2月4日まで)

12日(水) 第1学年授業・第2学年専門授業科目のオリエンテーション

14日(金) 学位論文受付締切

19日(水) 教授会、大学院医学研究科委員会

25日(火) 看護専門学校第二看護学科入学試験

1月26日(水) 同 上

30日(日) 看護専門学校第一看護学科入学試験

2月1日(火) 同 上

= 病院前が明るく美しく 高架工事完成 =



病院前見違える美しさに

長期にわたった大学病院前の阪急電車高架改修工事が完成し、10月1日から見違えるように美しくなった。病院正面の高架側壁は明るいシルバークレイ、上部レッドブラウン。そして歩道もカラーコーディネートされたスマートな道に。また高架内部にはショッピング、飲食街「ハミングストリート」が誕生、68店舗の店がにぎわっている。

雨が降れば駅改札口から、ここを抜けて病院正面までやってこれる。これで通院患者の便も大変よくなった。

附 属 病 院

平成5年度上半期附属病院患者動態

本年度上半期の患者動態は下記の通りです。

平成5年度附属病院患者動態

(平成5年4月～9月)

	人		対前年度増減率%	
	入院患者数	外来患者数	入院患者数	外来患者数
H. 5. 4	(871.9) 26,157	(2,543.2) 63,581	0.64	2.42
H. 5. 5	(832.5) 25,808	(2,525.0) 58,074	△ 3.15	△3.36
H. 5. 6	(885.2) 26,555	(2,570.6) 61,695	1.17	△2.70
H. 5. 7	(885.1) 27,439	(2,478.4) 66,917	△ 2.10	△2.80
H. 5. 8	(847.9) 26,286	(2,472.4) 64,282	△ 2.39	5.22
H. 5. 9	(867.9) 26,036	(2,638.3) 63,319	0.42	1.21
合 計	(865.1) 158,281	(2,538.0) 377,868	△ 0.93	△0.06

() 内は、1日平均患者数

*平成5年度上半期入院関係稼動日数183日(平成4年度も同)、

外来関係稼動日数149日(平成4年度は151日)

平成6年度臨床研修医募集要項について

平成6年度本学附属病院の臨床研修医募集要項が下記の通り決定いたしました。

1. 募集人員

全科で100名以内とする

2. 研修科目

第 1 内 科 ・ 第 2 内 科
 第 3 内 科 ・ 精 神 神 経 科
 一般・消化器外科・胸部外科
 脳 神 経 外 科 ・ 整 形 外 科
 小 児 科 ・ 産 婦 人 科

眼 科 ・ 耳 鼻 咽 喉 科
 皮 膚 科 ・ 泌 尿 器 科
 放 射 線 科 ・ 麻 醉 科
 歯 科 口 腔 外 科 ・ 形 成 外 科
 中央検査部・病態検査学

3. 応募資格

原則として当年施行の医師国家試験合格見込みの者および医師免許証を有する者

4. 出願期間

平成5年12月1日(水)から

平成6年1月31日(月)まで

5. 提出書類

- (1) 臨床研修許可願
- (2) 履歴書（JIS 日本工業規格使用、上半身の写真を貼付のこと）
- (3) 住民登録票
- (4) 卒業（見込）証明書および推薦書
- (5) 健康診断書
- (6) 国家試験合格証明書又は医師免許証（写）

6. 選考方法

各科個別におこなう

詳細は、各科より出願者に通知する

7. 臨床研修許可発表

郵送をもって通知する

8. 臨床研修開始予定 平成6年5月1日

なお、臨床研修実施にあたり国家試験発表後各科において打ち合わせを行い、平成6年4月26日（火）に全科合同のオリエンテーションを行う予定

9. その他

各科研修カリキュラムは別にさだめる

詳細についての問い合わせは下記まで

大阪医科大学附属病院管理課（内線 2221）

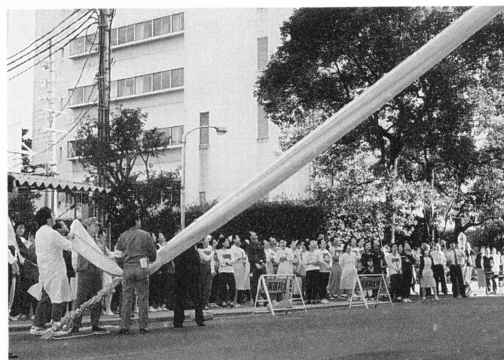
TEL (0726) 84 - 6305（直通）

消 防 訓 練

日時 10月28日（木）

午後1時30分より（約1時間程度）

火災等災害発生時に備える為、適切に通報連絡・初期消火・避難誘導等が出来るよう、病院65病棟から出火を想定した実地訓練が行われた。



第63回大阪医科大学解剖慰霊祭

平成5年度の第63回本学解剖慰霊祭が、10月16日（土）午後2時より、高槻市民会館において、ご遺族をはじめ生前委託者500名余りの方々をお迎えし、来賓、本学役員、教職員及び学生の参列のもとに執り行われた。



今年度大学祭開く

月日（曜日）	内 容
10.10（日）	各クラブ展示・医学展示、謡曲部発表会、ESS 英語劇、愛の献血、模擬店（於：専門課程）
10.11（月）	運動会（於：進学課程）、各クラブ展示、医学展示、空手道部演武会、模擬店（於：専門課程）
10.31（日）	森口博子コンサート （於：高槻市立文化会館大ホール）
11. 7（日）	ダンスパーティ （於：大阪マルビル・マハラジャ）

「Revolution」をテーマに 楽しさの演出を工夫

大学祭実行委員長 北田 学利

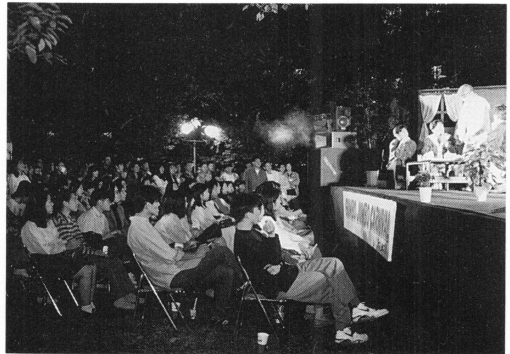
秋冷の候、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今年も大学祭の季節がやってまいりました。我々大学祭実行委員会はいこれまでの伝統を受け継ぎなおかつ新たな発展を成し遂げるべく全員一丸となり、各プロジェクトを推し進めてまいりました。

55年体制の崩壊に続き、新勢力が芽生え改革の時代を迎えた今年の時世にあやかって、「revolution」というテーマを設定。これまで、一部の学生しか屋内（有料）で見ることのできなかった寄席を、今回は参加者全員が屋外（無料）で気軽に見ていただけるようにしたり、テレビ、

雑誌などのメディアを通じ、他大学からも参加していただけるよう工夫するなど、従来の学祭のやり方そのものを見つめ直し、多くの方々が学祭を楽しめるようにと考えました。イベントに趣向を凝らし、また、本学生のみならず、他大学の学生も集うよう工夫した今回の学祭が、新たな発想と活力を吸収する学生交流の場として有意義なものになればと切に願っております。

本学祭にあたりましてご協力くださいました方々に心から感謝申し上げます。



第45回西日本医科学生総合体育大会

ゴルフ部が優勝、総合11位

第45回西日本医科学生総合体育大会は、藤田保健衛生大学が総主管校で東海地区を中心に全国44大学、約17,000人が参加し、20種目の競技について盛大に行われました。
本学の主な戦績は下記の通りです。

第45回 西日本医科学生総合体育大会成績

◎総合成績 第11位(得点:215点)

[各クラブ上位成績]

優勝	ゴルフ部
第3位	卓球部(女子)
第4位	ハンドボール部
ベスト8	ラグビー部
	サッカー部
	軟式庭球部(男子・女子)
ベスト16	硬式庭球部(男子)
	準硬式野球部
第7位	ヨット部

[総合成績]

第1位	岡山大学医学部	370.5点
第2位	富山医科薬科大学	346.5点
第3位	浜松医科大学	329.5点

この経験を人生の糧に

—西医体に思う—

今年の夏もようやく終わりを告げ、私たち学生は過ぎゆく夏を惜しむ間もなく多忙な学生生活を送っています。その中には忙しい学業の合間に、体育館やグラウンドで汗を流す体育系クラブの学生もいます。彼らの多くは、7月末から8月にかけて開催される西医体(西日本医科学生総合体育大会)に参加し、好成績をおさめることを一年の目標として、日々練習に励んでいます。

今年度の西医体での大阪医大の成績は、ゴルフ部の優勝、女子卓球部の三位入賞などの健闘が光りましたが、上位入賞が期待された他のクラブが期待はずれに終わり、総合成績も上位進出は難しそうな様子です。

しかし結果はともあれ、クラブにおいて先輩後輩が一つの目標に向かって、気持ちを一つにして活動することは、勉強の合間の単なる気分転換といったような価値のないものではありません。良医たるものに必要な、患者に対する誠意や思いやりは、時には楽しいクラブ活動を通じて体験できる人間関係からも学びとれるものと思います。

来年の西医体においても、多くの学生が人生の糧となるような経験をされることを望んでやみません。

'93年度西医体評議委員 中野 敦之

本学サッカー部の台湾遠征について

本学サッカー部が8月26日より8月29日までサッカー部創部65周年を記念し、台湾遠征を行い、親善を深めた。その際の感想は次の通りです。

————— ◇ —————

我々、大阪医科大学サッカー部は、創部60周年記念韓国遠征に続き、本年創部65周年記念として台湾遠征を8月26日より8月29日まで行った。

訪台に当たっては、松本秀雄学長から台湾大学医学院院長、陳維昭先生と台北医学院院長、胡俊弘先生への親善試合の正式依頼状を発して頂いた。

8月26日（木）早朝の便にて大阪国際空港を楯原サッカー部監督以下現役学生23名が台北に向かい、午後の便にて加藤OB会会長ほかOBの先生方が台北へと出発した。

田嶋定夫部長は御父上が逝去されたため訪台を中止された。

創部65周年を記念して

サッカー部台湾遠征
2 大学と親善ゲーム

8月27日（金）台北医学院の校内グラウンドにて台北医学院の学生との親善試合が行われた。台北医学院は、台湾の医学部では、トップを争う強豪チームではあったが4対0で勝利することができた。

夜には台北医学院主催による歓迎レセプションが台北市内のレストランで催された。

台北医学院から、蕭柳青小児科教授、董一致生物学教授、黄徳修病理学教授、劉昭義体育主任ほか数名の先生が代表として出席された。

学生、OBともに言葉の壁を乗り越え、有意義な時間を過ごすことができた。

8月28日（土）午前中、台北市内にある台湾

大学医学院の病院を見学した。すばらしく広大な敷地に大変立派な高層ビルで、その設備の充実さには、目を見張るものがあった。

昼食は医学院の食堂で御馳走になった。

午後には、台湾大学の広大なグラウンドにて台湾大学医学院の学生と親善試合が行われ、4対0でこれも勝利することができた。

夜、この日もまた、台湾大学医学院主催による歓迎のレセプションが台北市内のレストランで行われた。

台湾大学から病院長の謝博生教授、副院長の莊哲彦教授、温振源教授が出席され、松本秀雄学長とは旧知の法医学の大家、蕭道応先生から部員全員に5年ものの紹興酒をお土産として頂いた。

この日も前日同様楽しい時間を過ごすことができた。

8月29日（日）OB、現役部員共に同じ飛行機にて無事大阪国際空港に帰ってきた。

3泊4日という、短い期間ではあったが、この瞬間にサッカー部現役部員であることに幸せを感じ最後にこの遠征に御尽力、御協力して頂いた松本秀雄学長、田嶋定夫部長、楯原サッカー部監督、加藤OB会会長、及びOB諸先生に、現役部員23名から感謝いたします。

有難うございました。

大阪医科大学サッカー部

主 務 松橋 延壽



めぐみ アメリカ西海岸に行く

大学職員3名が初めての海外旅行を行いました。以下はそのすばらしい体験談です。



快適で陽気なシスコ ケーブルカー、海の幸……

ヨセミテ渓谷に心はずむ

私はこの夏、友人2人とアメリカ西海岸を旅行しました。サンフランシスコでは、日本の5月くらいの気温だと聞いていましたが、想像以上の涼しさにとても驚きました。街を歩く人達は、真夏にもかかわらず、セーターや厚手のコートを着ていてすっかり秋の雰囲気でした。さっそく街の代名詞とも言われるケーブルカーを目当てに訪れると乗客の長い行列ができ、その目の前でケーブルカーは180度向きが変えられていました。見ているとその作業は全て人力で行われ、1人の男の人がケーブルカーの端についた綱を引っ張り、数人の人達で押して車体の乗った円板をゆっくり回転させていました。観光客が、こぞって外向きのベンチに座る事をめがけてひしめきあう中、私達も遅れをとるまいと最後部の立席を確保し、ポールにつかまり立ちながら、サンフランシスコの美しい街並を眺めました。急な坂を上りきり、湾を見下ろしながら

フィッシャーマンズ・ワーフに降りると、そこは観光客で賑わい、あちこちの屋台では新鮮な海の幸、カニやエビを茹でる白い湯気が立ち上り、威勢のいい声がとび交っていました。私達は約千円でボイルされたカニ、たっぷり具の入ったクラムチャウダーに舌鼓をうち満足な昼食をとることができました。ケーブルカーのようなレトロっぽい乗物や港町らしい情緒にあふれるこの埠頭は、サンフランシスコの街の人々のどことなく親しみやすい、陽気な表情にとっても調和しているようでした。また、以前から風景写真に魅せられて行きたいな、と思っていたヨセミテ国立公園へも訪れました。野草が可憐に咲き、あちこちでまるまると太ったリスが走りまわっていました。人を恐れず後脚で立ち、鼻をびくびくさせるしぐさは、とても愛らしく思われました。氷河時代の名残りであるヨセミテ渓谷をはさみ、両側には標高差1000mの白い絶壁がそそり立ち、無数の滝が爆音をこだまさせていました。渓谷の絶壁の上に立つパノラマ展望台では、気が遠くなるような雄大な渓谷を見て、しばらく呆然としていました。自然の雄大さを肌で感じることができ、すばらしい体験だったと思います。

アメリカでは、治安の悪さが心配でしたが、危険な目にあうこともなく楽しい時を過ごす事ができました。帰りの飛行機では、安心と疲労で深い眠りに吸い込まれ、瞬間移動のように日本に着いた私は、大阪の蒸し暑い空気を吸って帰国を実感しました。

総務部 庶務課 事務員

牛村 めぐみ

晴れの戴帽式 43人が門出



本学看護専門学校第1看護学科戴帽式が10月18日（月）午後1時より大学臨床講堂において、来賓及びご父兄の方々をお迎えし、挙行され、43人が看護部長より戴帽を受けた。

誇り：感謝を胸に

1看1年 41番 山下 華栄

戴帽式当日、ただ漠然として席に座り、自分の名前が呼ばれるのをひたすら待ち続けていた。私は、大学に進学するという夢をずっと持ち続けていた。だから正直な所、入学してからの生活に疑問を抱いてきた。しかし私はこの看護という道を選び、人の手助けをする事で自分が一生懸命になれると気づき、そう言う自分に誇りを感じる。また沢山の人から祝福を受け、一層キャップの重みを実感した。自分の人生は自分

で切り開いていくものだ。私は、この先どんな苦勞が待っていようとも決して後悔はしないだろう。いつまでもこの気持ちが変わる事なく頑張っていきたいと思う。最後に、この道に進む事を支援してくれた家族に心から感謝する。

大阪医科大学学報 第18号

発行年月日 平成5年11月10日
発行 学校法人 大阪医科大学
発行責任者 事務局長 辻 倉 忠 男
編集・発行 総務部庶務課